狐につままれたままで人体実験するのも一興か？

Greatchain
June 4, 2024

多くのすぐれた知的分析力をもつ、私に好意的な方々のおかげで、私の追い込まれた窮状が何であるかが、少しずつわかってきたが——渦中の私は自分で自分を分析できない——やはり私には拭い去れない恐ろしいことがある。それは私が犯罪者として糾弾されることである。何度も言ったように、私はもし私が係累の全くない天涯孤独の身であったなら、何が起ころうと全く恐れない。しかし、私には家族の他に、昔から付き合ってくれた友人知人、昔の勤め先など多くの関係者がいる。私はこの人たちを巻き込んで迷惑をかけたくないのである。

自らを神あるいは神の代身と呼び、特別の透視能力をもつ、高次元の宗教的な方々との交流に追い込まれることを、彼らは私のためだというが、これがどれだけ私を苦しめることなのか、わかってもらえないようなのである。

何度も言うが、老いた私はここ５,６年、腰痛もあってほとんど外出せず、隠者のように暮らしている。それ以前には小さな会合を話すこともよくあった。それが、ここわずか 20 日ほどの間に、急速に、女性たちが私に引き付けられるという不思議な現象が起こり、そのために何か深刻な問題さえ起こしているらしい。私が魔術師でないのは確かなのだから、これは私を巻き込んで、私に何かをやらせようとしている人々の仕業と考えられる。私を良いことに使うのか、悪いことに使うのかわからないが、これは魔術的な能力を持つ神の使いの方々の、操作によるものとしか考えられない。

そこで私の顔の話が出てくる。この人たちによると私は「キュート」なのだそうで、このキュートを利用しない手はない、というような意味のことを言った。これは嫌な話だった。これは場合によっては、犯罪を匂わせるものである。そもそも私は誰からもそんなことを言われたことがない。私は学者（学問する者）としてある程度の誇りをもって生きているが、私にそんな失礼なことを言った同僚はいない。これは一流の画家に「あなたは絵がお上手ですね」と言うようなものである。些細なことのようだが、この人々の本質が現れている。（ただこれは、生きている次元が全く違う者同士の話だから、それでいいのだ、という考え方もありうる。）

一方で私に対して、law-enforcement（警察刑事関係）が動き出し、私の家に向かっているという噂が、かなり前から出ている。これはまだ実現していないが、もしそうなるとしたら､この何かと胡散臭い男である私の､性犯罪を立証しようとしてやってくるに違いない。私は、国家・主流メディア・NHK などに、善悪の観点で敵対する不都合な人間である。この不都合な私は、彼らにとって格好の獲物で、ちょうどトランプ前大統領を無力にするために逮捕したのと同じようなことが、私に対して起こるだろう。もしそうなれば私にとって大きな打撃だが、これは私の能力次第で、世界を一新させる絶好の機会でもある。

いったい｢神に価値を見込まれ愛される人間｣とはどんな人間か？　現在ユーチューブで、「エンパス」empath という人間のタイプのことを詳しく論じている方がいる。これは究極の悪人である「サイコパス」と正反対の人間で、極端に感じやすく繊細だが、単に繊細なだけでなく、根はもっと深い所（神）にあり、人間を改良させる力を持つ、と言っている。このように説明すれば誰でも納得し、問題は起こらないはずなのである。

この人間のタイプの問題を、神のみ使いを自任し、その世界だけに住んでいる人々が、いわば「神格化」しようとするから問題が生ずる。そんな神のような人間がこの世にいたことがあるか？　しいて言えばソクラテスか？　ソクラテスは､イエス･キリストのように、当時の常識を覆すようなことを言って処刑されたから、そう見えるかもしれない。ではもっと時代を下って、現代で一番偉い**神のような**人は誰だろうか？　これをアインシュタインだとしよう。これを、神の権威の序列の中にいて他の世界の見えない人々が、もし「アインシュタインは単に優れているだけでなく、神の血筋につながる者なのだから、今後は彼を絶対者として従わなければならない」と宣言したとしらどうなるか？　これによってアインシュタイン自体も、物理学世界も完全に崩壊するだろう。…そんなことが今起こっている。

ところで 5/17 の前稿で、宮沢賢治の「雨ニモマケズ」の結びの言葉は、私と同じ心境だと言ったことについて､「エンパス」の観点から補足してみたい。

ミンナニデクノボートヨバレ
ホメラレモセズ　クニモサレズ
サウイフモノニワタシハナリタイ

これをここだけ読めば、自虐的とも取れ、なぜこんなことを言うのかわからないが、ここには極めて繊細な心の働きが込められている。それは、少しでも人の心に負担をかけることを避け、罪作りをしたくない、という気持ちから発している。自分が褒められれば、この人は特別な偉い人だ、尊敬しなければならぬと、人々に負担をかけ、苦にされるほど嫌

われものなら、あの男は嫌な奴で親しくしてはならない、と心の負担をかけることになる。そしてそれが高じれば、嫉妬や憎しみのような犯罪を産み出すことにもなる。

だからこれが自虐どころか、人間としての高い責任を表明する詩であることは、次の（北に喧嘩や訴訟があれば）「ツマラナイカラヤメロトイヒ」と、言っていることからわかる。彼は決して「やめるべきだ」とか「やめた方がいい」とは言わなかった。「やめろ」と命令している。これは神仏の権威を自任することからきている。馬鹿げた民主主義などではない。

これは「行ッテコハガラナクテモイイトイヒ」というのが、仏教の「施無畏」（仏像の手の平の恰好）からきていること、その他に、いくつか仏教の教えが、ここにはめ込まれていることからわかる。

極端に感じやすく、繊細すぎる心の働きは、大胆な、岩をも動かす信念に裏打ちされていなければならない。